

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	秋田大学
設置者名	国立大学法人秋田大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
国際資源学部	国際資源学科 資源政策コース	夜・通信	26	2	39	67	13		
	国際資源学科 資源地球科学コース	夜・通信			26	54	13		
	国際資源学科 資源開発環境コース	夜・通信			30	58	13		
教育文化学部	学校教育課程	夜・通信		4		174	204	14	
	地域文化学科	夜・通信				36	66	13	
医学部	医学科	夜・通信		0		38	64	19	
	保健学科 看護学専攻	夜・通信				57	83	13	
	保健学科 理学療法学専攻	夜・通信				45	71	13	
	保健学科 作業療法学専攻	夜・通信				48	74	13	
理工学部	生命科学科 生命科学コース	夜・通信		2		19	47	13	
	物質科学科 応用化学コース	夜・通信				15	43	13	
	物質科学科 材料理工学コース	夜・通信				16	44	13	
	数理・電気電子情報 学科 数理科学コース	夜・通信				14	42	13	
	数理・電気電子情報 学科 電気電子工学コース	夜・通信				12	40	13	

数理・電気電子情報 学科 人間情報工学コース	夜・ 通信			13	41	13	
システムデザイン工 学科 機械工学コース	夜・ 通信			15	43	13	
システムデザイン工 学科 創造生産工学コース	夜・ 通信			15	43	13	
システムデザイン工 学科 土木環境工学コース	夜・ 通信			28	55	13	
(備考) 創造生産工学コースは令和2年度より機械工学コースと統合し募集停止。							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・大学ホームページへの掲載

(https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	秋田大学
設置者名	国立大学法人秋田大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<ul style="list-style-type: none">・大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/legal/pu_president.html)・刊行物（大学概要：一般配布）にて公表 <p>※大学概要は大学ホームページへも掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/magazine/outline/index.html)</p>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2022. 4. 1 ~ 2024. 3. 31	経営分析担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	秋田大学
設置者名	国立大学法人秋田大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

【国際資源学部】

例年2月頃に教員へ次年度のシラバスの作成・更新を依頼し、教員はWebシステム上でシラバスの入力を行う。作成されたシラバスは4月の授業開始前にインターネット上で公表している。

シラバスの主な項目は以下のとおりである。

- ・授業の目的・概要
- ・到達目標
- ・カリキュラム上の位置付け
- ・授業の進行予定と進め方
- ・授業時間外の学習内容等
- ・成績評価の方法と基準

【教育文化学部】

当該年度に開講する全ての授業科目についてシラバスを作成し、授業開講年度の4月(授業開始前)にwebで公開している。学生及び教職員のほか学外者の閲覧も可能である。

シラバスの主な項目は以下のとおりである。

- ・授業の目的と到達目標
- ・授業の概要と進行予定及び進め方
- ・授業時間外の学習内容等
- ・成績評価の方法と基準

【医学部医学科】

様式に基づいてシラバスを入力・作成し、ホームページ及び冊子媒体として配付している。各授業科目について、授業の概要及び到達目標、授業の方法及び内容、授業計画、成績評価の方法等の事項を記載したシラバスを教員が作成し、インターネット上(学外からも閲覧可能)および冊子媒体を毎年度4月の授業開始前に掲載・公表・配付している。

【医学部保健学科】

様式に基づき各授業科目について、授業の目的及び到達目標、カリキュラム上の位置付け、授業の概要と進行予定及び進め方、成績評価の方法、授業展開、授業内容・授業時間外学習の内容等の事項を記載したシラバスを教員が作成する。それをインターネット上(学外からも閲覧可能)に毎年度4月の授業開始前に掲載し、公表している。

【理工学部】

例年1月～2月に次年度の授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成を依頼し、4月初めにインターネット上で公表している。

シラバスの主な記載事項は以下のとおりである。

- ・授業形式(講義・演習・実験・実習)
- ・授業の目的・概要
- ・到達目標
- ・カリキュラム上の位置付け
- ・授業の進行予定と進め方
- ・授業時間外の学習内容等
- ・成績評価の方法と基準

授業計画書の公表方法

(<https://anet.akita-u.ac.jp/portal/top.do>)

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【国際資源学部】

「秋田大学成績評価ガイドライン」及び「学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、適正に単位授与及び履修認定を実施している。成績評価ガイドラインにより、全学における成績の厳格性及び公平性を保証している。また、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）では、評価における具体的な手法や数値化での達成度評価、レターグレードでの成績評価等、本学部における指針を定め、学生が修得した知識、技能、思考力等の多面的な評価を実施している。

【教育文化学部】

「教育文化学部アセスメント・ポリシー」により、評価の方法及び成績評価の基準（評語 S, A, B, C 等）を適用する際の判断基準を定めるとともに、全学生へ配付する「教育文化学部履修関係規程」に掲載している。また、全ての授業科目のシラバスに成績評価の方法と基準について記載する欄を設け、授業の履修者へあらかじめ示している。「教育文化学部アセスメント・ポリシー」には、このほか再試験および追試験、出席条件、情報の開示、点検と改善についての方針を定めており、これらに基づいた単位の授与又は履修の認定を実施している。

【医学部医学科】

秋田大学医学部規程第 8 条により、「授業科目の認定は、試験による」とし、その「試験」については秋田大学医学部医学科試験内規第 2 条の 2 により、専門教育科目を統合して行うと定めている。専門教育科目を統合して行う試験は秋田大学医学部医学科試験内規第 3 条により、学務委員会の責任のもと、厳格かつ適正な客観試験として実施されている。また、秋田大学医学部医学科試験内規第 6 条により、試験の受験資格として、当該科目の 3 分の 2 以上の出席と所定の実習を終了していることの 2 つを要件としており、受験資格の確認が学習意欲の把握に繋がっている。さらに、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）も定め、より適正な評価に努めている。

【医学部保健学科】

学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）により、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準に基づき、適正に単位授与及び履修認定を実施している。成績評価の厳格性及び公平性を保証するための取組として、成績評価ガイドラインの策定、評価方法に関する FD・SD シンポジウムを実施している。

【理工学部】

「理工学部アセスメント・ポリシー」に記載のとおり評価の内容、方法、基準等を定めている。個別の科目については、授業計画（シラバス）の「成績評価の方法と基準」の項目に記載されている。あらかじめ設定された上記の成績評価の方法、基準により厳格かつ適正に学生の学習成果を評価し、単位を授与している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【国際資源学部】

GPA による成績評価方法を導入し、学生個人及び科目の達成度の評価に利用している。GPA の算出方法は以下のとおりである。

・各科目の成績について、次のポイントを与える。

S:4 ポイント, A:3 ポイント, B:2 ポイント, C:1 ポイント, D:0 ポイント, D (放棄):0 ポイント

・計算式: $\{(S \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)\} \div \text{履修登録した科目の総単位数}$

なお、GPA の対象となる科目は卒業に必要な科目とし、その他は除外して算出される。算出された GPA は学生指導の他、大学院推薦入試、学業奨励金、学業優秀者表彰の選考等にも使用される。

【教育文化学部】

「GPA(Grade Point Average)に関する内規」により、科目 GPA 及び学生 GPA の算出方法を定め、全学生へ配付する「教育文化学部履修関係規程」により明示している。具体的な算出方法は以下のとおり。

・GPA について

履修者の成績評価に対して以下の GP (Grade Point) をあて、加重平均して算出する。

S (90 点以上): 4 ポイント, A (80 点以上 90 点未満): 3 ポイント, B (70 点以上 80 点未満): 2 ポイント, C (60 点以上 70 点未満): 1 ポイント, D (60 点未満): 0 ポイント

・科目 GPA について

以下のとおりに算出する。

$$\frac{\{(S \text{ 修得者数} \times 4) + (A \text{ 修得者数} \times 3) + (B \text{ 修得者数} \times 2) + (C \text{ 修得者数} \times 1)\}}{\text{(履修登録者数)}}$$

ただし、以下の科目については算出しない。

① 成績が可か不可かの二択に近く、主に学外で行われる実習系の科目、②受講生数が 5 名以下の授業、③卒業研究(学校教育課程ゼミナール及び地域文化学科卒業研究プレゼミを含む。)④教職実践演習

・学生 GPA について

以下のとおりに算出し、通算 GPA と学期 GPA の二種類を学生本人に通知する。

$$\{(S \text{ 修得者数} \times 4) + (A \text{ 修得者数} \times 3) + (B \text{ 修得者数} \times 2) + (C \text{ 修得者数} \times 1)\} \div \text{(履修登録した科目の総単位数)}$$

ただし、以下の科目については算出しない。

①成績が可か不可かの二択に近く、主に学外で行われる実習系の科目、②入学・編入学・転入学前に修得した単位認定科目、③他大学との単位互換等で修得した科目

通算 GPA 及び学期 GPA は、学生個人が学生ポータルサイトにより確認できるほか、科目 GPA についても、学期毎に学生ポータルサイトで公表している。また、学期毎に成績分布データを作成し、「秋田大学成績評価ガイドライン」に基づいた分布に則しているかどうか教務学生委員会において確認を行う。このデータは教授会で報告するとともに、適正な成績評価について全教員へ依頼を行う。

【医学部】

GPA を導入しており、履修関係冊子及びインターネット上に公開している。

・値算出方法

1. 各科目の成績について、次のポイントを与える。

S:4 ポイント, A:3 ポイント, B:2 ポイント, C:1 ポイント, D:0 ポイント, D (放棄):0 ポイント

2. 計算式

通算 GPA = $\{(S \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1)\} \div \text{履修登録した科目の総単位数}$

また、医学科専門教育科目では客観試験による統一試験を実施しており、成績の分布状況は統一試験により把握している。

<p>【理工学部】</p> <p>成績評価の客観的な指標として GPA を導入しており、具体的な算出方法は以下のとおり。また、この算出方法は 1. 秋田大学ホームページ, 2. 理工学部履修案内 (冊子), 3. 理工学部時間割表 (冊子) にて公表している。</p> <p>・算出方法</p> <p>1. 各科目の成績について次のポイントを与える。</p> <p>S:4 ポイント, A:3 ポイント, B:2 ポイント, C:1 ポイント, D:0 ポイント</p> $\frac{\{(S \text{ 修得者数} \times 4) + (A \text{ 修得者数} \times 3) + (B \text{ 修得者数} \times 2) + (C \text{ 修得者数} \times 1)\}}{\text{(履修登録した科目の総単位数)}}$ <p>算出した GPA はコース毎の分布状況を作成し、把握している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>(https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/base/sistem.html)</p> <p>【国際資源学部】「履修案内」を総合学務課において配付</p> <p>【教育文化学部】「教育文化学部履修関係規程」を総合学務課において配付</p> <p>【医学部】「学生便覧」(医学科), 「授業計画」(保健学科)を医学部学務課において配付</p> <p>【理工学部】「履修案内」及び「理工学部時間割表」を総合学務課において配付</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【国際資源学部】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような能力を身に付けた学生に学位を授与している。

- ・地球規模となった金属・非金属資源、石油・天然ガス資源問題の解決のため、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者としての知識・技術
- ・地球的視点から多面的に物事を考える能力
- ・技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力
- ・自然科学および情報処理技術に関する知識とそれを応用する能力
- ・資源分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力
- ・種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- ・日本語、および英語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力
- ・主体的かつ継続的に学習できる能力
- ・与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

卒業の要件は、4年以上在学し、学部が定める所定の単位を修得するものとする。卒業の要件を満たした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

【教育文化学部】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、webで公表している。

なお、卒業の認定に当たっての基準（卒業の要件、卒業判定の手順）については、秋田大学学則第49条及び教育文化学部規程別表1、別表2、別表3により規定され、学生全員へ配付する「教育文化学部履修関係規程」へ掲載するとともに、秋田大学ホームページ（教育情報の公表）において公表している。また、「教育文化学部卒業研究に関する内規」及び「卒業研究の評価基準」を定め、卒業研究については、届出の時期・方法、卒業論文の提出時期・方法、特別の事由による提出猶予等具体的な内容についても定めている。

【医学部医学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（医学）」の学位を授与している。

1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として協調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力
3. 適応能力：絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康問題を探求し、医学情報を積極的に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力
7. 基本的臨床能力：疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力

卒業の要件は、6年以上在学し、各学部が定める所定の単位を修得するものとする。卒業の要件を満たした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

【医学部保健学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（看護学）」または「学士（保健学）」の学位を授与している。

1. 豊かな人間性や教養と倫理性：柔軟で豊かな人間性や高い教養を有し、医療に携わる

ものとしての倫理を遵守できる能力

2. コミュニケーション能力：医療、保健、福祉チームの一員として協調して行動し、患者、障害のある人々、それらの家族などを理解し、良好な関係を構築できる能力

3. 確かな知識と技能：専門的知識や技術を修得し、基本的な医療行為を安全に実施することができる能力

4. 向上心と適応性：進歩し続ける医学や医療に興味を持ち学習し、生涯にわたり自らを高め、その成果を取り入れることができる能力

5. 課題探求と問題解決能力：課題を自ら探求し、科学的な評価と検討のもと、その問題解決のために努力することができる能力

6. 貢献できる能力：患者、障害のある人々の回復や、地域住民の健康維持や増進、国際社会での医療・保健活動などを支援し貢献することができる能力

以降は、学位毎に求められる素養です。

学士（看護学）：自己の責任と能力を認識し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力

学士（保健学）：障害を持つ人々を理解し、社会復帰に向けて多職種と連携して支援できる能力

卒業の要件は、4年以上在学し、各学部が定める所定の単位を修得するものとする。卒業の要件を満たした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

【理工学部】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（理工学）」「学士（理学）」または「学士（工学）」の学位を授与している。

（知識）

1. 理工学の各分野の基礎知識・技術
2. 各コースの分野における専門知識・技術
3. 専門分野に関連する職業・キャリアパスの知識
4. 地域の自然、社会、産業、文化等に関する知識

（技能）

5. 種々の科学・技術および情報を利用して社会の要求に応えるためのデザイン能力とプロポーザル能力
6. 周りの人々と協働して課題を解決する統率力
7. 与えられた制約の下で課題解決に向けて計画的に取り組む実行力
8. 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力
9. 英語の活用能力
10. 情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集・分析し効果的に応用する情報活用能力

（態度）

11. 主体的かつ継続的に学習する態度
12. 地域の諸課題を自ら発見し、柔軟で総合的な視点で課題に取り組む態度
13. 科学技術が自然と社会に及ぼす影響と効果を理解し、強い責任感と高い倫理観を持って行動する態度

以降は、学位毎に求められる素養です。

学士（理工学）：理学と工学が融合した理工学の幅広い知識と論理的な思考力、およびグローバル社会や地域の諸課題に挑戦する科学技術者・研究者としての能力

学士（理学）：理学系と数学に関する幅広い基礎知識、問題解決能力と創造性、および科学者・研究者としての社会的義務と責任を認識する能力

学士（工学）：工学系の先端分野・学際分野に関する知識・技術、高齢化問題への対応や防災力の向上など持続可能な地域社会の実現に向けた諸課題および新たな産業に挑戦する科学技術者・研究者としての能力

卒業の要件は、4年以上在学し、学部が定める所定の単位を修得するものとする。卒業の要件を満たした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	(https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	秋田大学
設置者名	国立大学法人秋田大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	官報及び大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/legal/pu_zaimu.html)
収支計算書又は 損益計算書	官報及び大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/legal/pu_zaimu.html)
財産目録	
事業報告書	大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/legal/pu_zaimu.html)
監事による監査 報告(書)	大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/legal/pu_kansa.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_check.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページへの掲載 (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_check.html) (https://www.akita-u.ac.jp/honbu/event/item.cgi?mix&2840)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際資源学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)</p> <p>(概要) 本学部は、地球の資源・エネルギー問題の解決を目指し、資源を網羅的かつ多角的に学び、豊かな人間性と国際的視野を併せ持ち、新たな資源技術と将来の資源・エネルギー戦略の発展・革新を担う人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)</p> <p>(概要) 国際資源学部では、次のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士(資源学)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模となった金属・非金属資源、石油・天然ガス資源問題の解決のため、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者としての知識・技術 2. 地球的視点から多面的に物事を考える能力 3. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力 4. 自然科学および情報処理技術に関する知識とそれを応用する能力 5. 資源分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力 6. 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 7. 日本語、および英語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション能力 8. 主体的かつ継続的に学習できる能力 9. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)</p> <p>(概要) 国際資源学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。</p> <p>(教育課程編成方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少人数教育を基本とし、入学から卒業までの継続性を重視し4年一貫教育を行う。 2. 地球規模の金属・非金属資源、石油・天然ガス資源に関わる資源分野の問題解決能力、国際的に活躍できる実務家・技術者・研究者に必要な知識・技術を修得できる教育を行う。 3. 応用力や創造性を重視した専門教育を行う。 4. 専門知識を応用して資源に関する問題を解決できる能力を養成するカリキュラムを構成する。 5. 野外における実践的な手法と技能を重視した教育を行う。 6. 国際的に通用する論理的思考力と判断力、外国語による表現力とコミュニケーション能力を養成するカリキュラムを構成する。 7. 資源に関する最新情報および最新研究成果収集のために必要な文献講読能力を養成するカリキュラムを構成する。 8. 自然科学と人文科学の両面から資源問題を捉える能力を養成するカリキュラムを構成する。 <p>(学修方法・学修過程)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年次には、学問の様々な分野について幅広い知識を修得し、広い視野を持って考える能力を身につけることを目的として、教養教育科目群を履修する。また、資源学に関わる基

礎的な知識と実験方法の習得のため、基礎教育科目および専門教育科目の各概論を履修する。
2～3年次には、資源政策、資源地球科学、資源開発環境学の各分野の専門性を高めるため、コース専門教育科目を履修し、高度な理論や研究を進めるための方法論などを学修する。また、英語で実施する専門教育科目および「海外資源フィールドワーク」を履修することにより、国際的に通用する論理的な表現力とコミュニケーション能力を習得する。
4年次には、研究室に所属し、3年次までの学修を通じて得た実践的知見をもとに「卒業課題研究」に取り組み、資源をめぐる諸問題を多角的に考察するとともに、主体的に課題を設定し問題解決する能力を養成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)

◆育てる人間像

国際資源学部では、地球規模となった資源問題の解決を目指し、豊かな人間性と国際的視野を併せ持ち、新たな資源技術と将来の資源・エネルギー戦略の発展・革新を担う人材を育成します。

●求める人物像

1. 資源・エネルギー・環境問題への強い関心を持ち、その解決のためにねばり強く探求し柔軟に思考できる人
2. 自然科学と人文社会科学の両面から資源問題を総合的に捉え、実務家、技術者、研究者として社会の発展に貢献したいという意欲を持ち、新たな分野へ立ち向かうチャレンジ精神のある人
3. 国際的に通用する論理的思考力と判断力および外国語による表現力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバルなフィールドで活躍しようとする人

《資源政策コース》

●求める人物像

1. 資源・エネルギー・環境等の地球全体の課題に関心を持ち、持続可能な社会形成に貢献したいと思っている人
2. 国際社会の様々な分野で活躍したいと考えている人
3. 多様な価値観を持つ人々との交流に強い関心を持っている人

《資源地球科学コース》

●求める人物像

1. 自然現象への好奇心が強く、地球の成り立ちを解明することや新たな資源を探求することに挑戦する意欲のある人
2. 物事を深く洞察し、野外調査や実験にねばり強く取り組める人
3. 将来、地下資源探査・開発に関わる技術者として、または資源地球科学分野の研究者として国際的に活躍したい人

《資源開発環境コース》

●求める人物像

1. 資源の探査、資源・エネルギーの生産手法、リサイクルなどに強い関心を持つ人
2. 多様な観点で物事を観察し、新たな価値の創造へ果敢に挑戦する意欲を持つ人
3. 自然環境と調和した技術やシステムの開発を実現し、環境に配慮した資源開発と資源循環型社会の創出に貢献したい人

学部等名 教育文化学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)

(概要)

本学部は、人間の発達への深い理解にたつて、人間存在をめぐる現代的諸課題を総合的に探求し、新たな生活文化の創造を担う人材の養成を目的とする。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)</p>
<p>(概要) 教育文化学部では、次のような知識、技能、態度を身につけた学生に「学士(学校教育)」または「学士(地域文化)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間発達を中核とした、幅広い諸科学の基礎的な体系の理解 2. 日本語や他の言語を適切に運用する能力 3. さまざまな人々と協働するためのコミュニケーション能力 4. さまざまな情報を適切に収集し、科学的・批判的に分析・処理し、創造的に発信する能力 5. 得られた知識、情報を活用し、人間存在をめぐる現代的課題を総合的、多面的に探求する能力 6. 人権が尊重され、平和で民主的、かつ持続可能な社会の進展のために、自らの知識、能力を活用し、人々と協力しながら主体的に行動する態度 7. 主体的に学び続け、専門的な知の継承・発展・創造に寄与しようとする態度 8. 社会人として、また専門的職業人としての高い倫理観、使命感、責任感をもって行動する態度 <p>学士(学校教育)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育に関する専門的知見を有し、地域の教育と人々の成長・発達を支え、発展させていこうとする使命感、責任感 2. 教育・学習にかかわる基礎的な理論や原理を理解するとともに、授業デザイン、教材研究、授業技術、実践省察など、基礎的な教育実践力 3. 人間、特に子どもを深く共感的に理解し、個々の成長発達を支援するとともに、健全な集団・組織づくりに寄与することができる能力 4. 子ども、保護者、地域住民、そして仲間とのコミュニケーション能力を有し、よりよい人間関係を構築していくことができる能力 5. 自然科学や人文科学、芸術、スポーツが人間にもたらす価値を理解し、それらの創造・発展に寄与することができる能力 <p>学士(地域文化)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の風土・文化に対する確かな見識と社会的課題を解決するために必要な幅広い教養 2. 社会のニーズを理解し、ローカルとグローバルの双方向的な視点から問題解決を図ることができる能力 3. 日本と世界の多様な文化を理解し、人間社会のあり方を深く考察することができる能力 4. 一定水準の外国語運用能力を有し、文化的背景を踏まえて、異なる文化圏に属する人々とコミュニケーションが図れる能力 5. 生活の質的向上や、地域における文化等の活性化および新たな生活文化の創造を主体的に担おうとする態度 6. ディベートやプレゼンテーションを通して、自らの考えを明確に説明できる能力 7. 高いコミュニケーション能力と協調性をもって、協働しながら諸課題の解決に取り組むことができる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)</p>
<p>(概要) 教育文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。</p> <p>(教育課程編成方針)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学、社会科学、自然科学を横断統合し、主体的に学べる学際的なカリキュラムを構成する。 2. 初年次ゼミから卒業研究までの一貫した学習指導の体制を取り、学生のニーズに応じ

たカリキュラムを構成する。

3. 学部の共通科目として、人間発達に関わる科目を配することで、学部共通の基盤的な知識を習得できるカリキュラムを構成する。

4. 教養、基礎、専門科目の構造的・体系的な配置により、諸事象を多角的・多面的にとらえるカリキュラムを構成する。

5. 学生参加型授業を推進し、授業内容・方法の工夫・改善を図り、問題解決力や社会的実践力の育成に資するカリキュラムを構成する。

[学校教育課程]

(教育課程編成方針)

1. 学校教育を中心に、人間発達に関わる基礎的、理論的な知識・技能を重視し、歴史的、国際的、科学的な視野を育てるカリキュラムを構成する。

2. 4年間を通じて段階的に教育実践科目を位置づけることで、理論と実践との往還をはかりながら授業実践力を身につけられるカリキュラムを構成する。

3. 地域の課題、地域の特色を積極的に取り入れた教材開発と授業デザイン力の育成を目指したカリキュラムを構成する。

4. 学校を訪問し実践に参加する学校ボランティアなど、大学と学校現場が密接に協力した授業などを設定する。

5. 自然科学や人文科学、芸術、スポーツに関する基礎的な知識・技能を育成するための授業を設定する。

(学修方法・学修過程)

1年次では、教育・学習に関わる基礎的能力を身につけることを目的として、基礎教育科目群を中心に履修する。また、現場実践力の基礎を身につけるために実践科目群を履修する。2～3年次では、人間を深く共感的に理解し、よりよい人間関係を構築しつつ、コミュニケーション能力を身につけるために実践科目群を履修する。平行して教育・保育関連分野の内容や指導法を専門科目群で学び、教育方法の知識や技術等の教育・学習に関わる実践力を修得する。

4年次では、教育・学習に関わる勉学の集大成として、実践的な研究に取り組み、高度に教育する能力を身につける。

[地域文化学科]

(教育課程編成方針)

1. 地域生活の実相と課題に対する認識を深めるために、統計処理やフィールドワークなどを組んだカリキュラムを構成する。

2. 国際化という時代の要請に応えるために、外国語の実践的な言語運用能力の習得を目指したカリキュラムを構成する。

3. 講義、演習、実習・実験科目をバランスよく配して、実社会を見据えながら理論や知識の習得、スキルの獲得が行えるようにカリキュラムを構成する。

4. 地域学基礎や地域連携プロジェクトゼミ等、学生参加型・地域連携型の授業を推進し、問題解決力や社会的実践力の育成に資するカリキュラムを構成する。

5. 特定領域科目を設定し、専門的知見に基づく諸事象への洞察力を養うカリキュラムを構成する。

(学修方法・学修過程)

1年次では、地域社会・人間文化を知り、実体験するために、幅広い分野の学術的基礎知識を身につけ、地域現場を学術的に実体験する。基礎的な学術知識および外国語・情報処理の能力を身につけ、基礎的なフィールドワーク（地域調査）を体験し、その成果を集団で公表して質疑に答える能力を養う。

2～3年次では、基本的な社会科学・人文科学の研究法等をふまえ、多彩な講義・演習・実習を通じて、地域社会あるいは地域文化を主体的に研究する基本能力、地域で役立つコミュニケーション能力（応用的な外国語能力を含む）を身につける。そのうえで、多様な地域社会・人間文化に関わる専門的な研究能力を高めるとともに、地域連携あるいは地域研究の実践を体験する。その成果発表をより洗練されたかたちで公表し、地域との対話が可能となる能力を磨く。

4年次では、地域社会・人間文化に関わる勉学の集大成として、卒業研究を学術論文として仕上げ、ローカルおよびグローバルな観点から問題を見だし解決を図る地域現場での実践力を養成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)

◆育てる人間像

教育文化学部では人間存在をめぐる現代的課題を総合的に探究し、教員および新たな生活文化の創造を担う人材を育成します。

[学校教育課程]

●求める人物像

多様な教育的諸課題に対処できるように、豊かな人間性と専門的知識・技術、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を備えた教員を目指す強い意志のある人を求めています。

《教育実践コース》

●求める人物像

1. 学校の教員として働こうとする強い意志のある人
2. 子どもに対する理解と教育に強い情熱を持つ人
3. 学校教育のさまざまな課題に積極的に取り組もうとする意欲のある人

《英語教育コース》

●求める人物像

1. 教員となることを強く希望し、理論的知識を身につけ実践的能力を養うことに積極的に取り組もうとする人
2. 英語教育について高い関心があり、英語教育のさまざまな教育課題に積極的に取り組もうとする人
3. 英語力を向上させることについて意欲と情熱を持ち、学習する機会を積極的に捉え、英語力を伸ばすための努力を惜しまない人
4. グローバル社会における異文化間コミュニケーションの重要性を意識し、自ら進んで外国の人々とのコミュニケーションを図ろうとする人

《理数教育コース》

●求める人物像

1. 教員となることを強く希望する人
2. 理科教育・数学教育の現代的な諸課題の解決に向けて積極的に取り組もうとする意欲のある人
3. 自然科学に興味や関心を持ち、実験や観察を通じた理科教育に熱意のある人
4. 数学への理解を深め、数学の学習を通して、自然や社会に対して自ら進んで論理的に考える態度を育てたい人

《特別支援教育コース》

●求める人物像

1. 特別支援学校や小学校・中学校等で働くことを強く希望する人
2. 障害のある子どもに対する理解と教育に強い情熱を持つ人
3. 特別支援教育のさまざまな教育課題に積極的に取り組む意欲のある人

《こども発達コース》

●求める人物像

1. 幼稚園・保育関連施設・小学校の仕事に携わることを強く希望する人
2. 子どもに対する理解と教育・保育・心理支援に強い情熱を持つ人
3. 乳幼児期から児童期の子どもに関わるさまざまな教育・保育課題や、子どもへの心理発達の支援に積極的に取り組もうとする意欲のある人

[地域文化学科]

●求める人物像

1. 地域社会の将来を展望し、行政・経済・生活・文化などの各方面において地域の活性化に貢献したいという強い情熱のある人

2. 地域の抱えるさまざまな問題に対して、人文・社会科学や生活科学、自然科学、情報科学、心理学の総合的な成果を踏まえて分析し、これに実践的に応えていこうという意欲のある人
3. 地域の特性・伝統を理解しながら、日本および世界の歴史・文化に対しても幅広い関心を有し、学業で得た知識・経験を積極的に活用し、地域文化の継承・発展に取り組もうという意欲のある人
4. 地域情報を世界に向けて発信し、世界の各地域との交流を促進しようという意欲のある人

学部等名 医学部

教育研究上の目的
(公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)

(概要)
本学部は、豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観、及び学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針
(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)

【医学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（医学）」の学位を授与している。

1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として協調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力
3. 適応能力：絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康問題を探求し、医学情報を積極的に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力
7. 基本的臨床能力：疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力

【保健学科】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、以下のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（看護学）」または「学士（保健学）」の学位を授与している。

1. 豊かな人間性や教養と倫理性：柔軟で豊かな人間性や高い教養を有し、医療に携わるものとしての倫理を遵守できる能力
2. コミュニケーション能力：医療、保健、福祉チームの一員として協調して行動し、患者、障害のある人々、それらの家族などを理解し、良好な関係を構築できる能力
3. 確かな知識と技能：専門的知識や技術を修得し、基本的な医療行為を安全に実施することができる能力
4. 向上心と適応性：進歩し続ける医学や医療に興味を持ち学習し、生涯にわたり自らを高め、その成果を取り入れることができる能力
5. 課題探求と問題解決能力：課題を自ら探求し、科学的な評価と検討のもと、その問題

解決のために努力することができる能力
6. 貢献できる能力：患者、障害のある人々の回復や、地域住民の健康維持や増進、国際社会での医療・保健活動などを支援し貢献することができる能力
以降は、学位毎に求められる素養です。
学士（看護学）：自己の責任と能力を認識し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力
学士（保健学）：障害を持つ人々を理解し、社会復帰に向けて多職種と連携して支援できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)
【医学科】
医学部医学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。
(教育課程編成方針)
1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力を修得するカリキュラムを構成する。
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として協調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力を修得するカリキュラムを構成する。
3. 適応能力：絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力を修得するカリキュラムを構成する。
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康問題を探求し、医学情報を積極的に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
7. 基本的臨床能力：疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力を修得するカリキュラムを構成する。
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。
(学修方法・学修過程)
1年次には、幅広い教養と医学を学ぶ前段階の科学の知識を身につけることを目的として、教養基礎教育科目を履修する。また、人体の構造・機能の基礎を身につけるため基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。
2年次には、人体の構造・機能を詳細に学び、疾病の原因・病態・治療に関連する基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。また、興味のある基礎医学を選択的に学ぶことを目的としてアドバンス基礎医学コースを履修する。
3年次から4年次前半には、臓器別・器官別に全ての診療科の臨床医学を学ぶとともに、社会医学の知識や技能を修得する。また、3年次前半には基礎医学講座・社会医学講座等に配属されて研究・実務活動に触れる研究配属、4年次前半には興味のある臨床医学を選択的に学ぶことを目的として臨床アドバンスコースを履修する。
4年次後半から5年次前半には、医学部附属病院等の医療現場で全ての診療科の実践的な診療能力を修得する診療参加型臨床実習を履修する。この間、症例ベースの演習、医師国家試験に向けた対策、医療・社会・行動科学の演習をする目的で、医学医療総合講義を履修する。
5年次後半から6年次前半には、医学部附属病院および県内地域医療機関等（国際交流医療機関を含む）の医療現場で、学生の希望・選択を考慮した診療参加型臨床実習を履修する。この間、前述の医学医療総合講義を履修する。
6年次後半には、従来から学んできた臨床医学の知識・技能を再確認し、「学士（医学）」

の学位を授与するに相応しい学生であるか否かの評価を受けるために卒業試験およびアドバンス OSCE（客観的臨床能力試験）を受けるとともに、医師国家試験に備えた準備をする。医学科では、学生が卒業時に達成すべき能力として、以下の 6 つのコンピテンスを定めている。

1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力
3. 医学各分野及び関連領域の知識と応用力
4. 実践的臨床能力
5. リサーチマインド・問題解決能力
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力

各コンピテンスには、それぞれ具体的な到達目標がコンピテンシーとして設定され、合計 32 項目のコンピテンシーから成る。個々のコンピテンシーは 6 年間のうちの特定の時期において達成されるのではなく、各学年で履修する科目ごとに定められたレベルをクリアしながら徐々に能力が向上し、卒業時には全ての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるよう、カリキュラムが構築されている。

【保健学科】

医学部保健学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。

（教育課程編成方針）

1. 教養基礎教育，専門基礎教育，専門教育の系統立てた配置により，人々の健康，特に地域医療およびチーム医療に貢献できる医療専門職者を養成するカリキュラムを構成する。
2. 教養教育科目，基礎教育科目では，医療専門職者として求められる，コミュニケーション能力，探究心，柔軟で豊かな人間性，倫理性などの能力を修得することができるカリキュラムを構成する。
3. 専門基礎科目では，それぞれの専門分野にすすむための，基礎的な知識（人体の構造と機能，人間発達および社会福祉など）を修得することができるカリキュラムを構成する。
4. 専門科目では，専攻ごとに特色を持ち，講義や実習を通じてそれぞれの専門分野に必須の知識や技術を修得するカリキュラムを構成する。また，卒業研究を通じて，課題を自ら探究し問題解決能力を身につけることができるカリキュラムを構成する。
5. 臨床実習，臨地実習では，医療専門職者に求められる知識，技能，態度，判断力を統合し，実践することができるカリキュラムを構成する。

（学修方法・学修過程）

- 1 年次には，幅広い知識と教養そしてコミュニケーション能力を身につけることを目的に，教養教育科目，基礎教育科目，専門基礎科目，一部の専門科目を履修する。また，多職種連携や課題探究能力を養うことを目的に，初年次ゼミを履修する。
- 2 年次には，専門分野の基本的な知識や技術を修得し，医療行為を安全に実施することを目的に，専門基礎科目，実技演習などの専門科目，基礎実習を履修する。
- 3 年次には，確かな知識と技術を身につけ，対象に適切な医療行為や援助ができることを目的に，専門科目，臨床実習を履修する。
- 4 年次には，医療専門職者として知識，技能，態度，判断力を統合し実践することを目的に，臨床実習，臨地実習を履修する。また，課題を自ら探究し問題解決能力を身につけることを目的に，卒業研究を履修する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>）

（概要）

◆育てる人間像

医学部では，豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観および学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い，医学・健康科学に対する十分な理解のもとに，人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成します。

<p>●求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気に悩む人々の痛みや苦しみを理解し真摯な態度で接することができる人 2. 医療・保健・福祉の発展を目指して一生涯にわたり医学の研鑽にたゆみない努力を継続できる人 3. 素直で協調性に富み、周囲の人々と円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を持つ人 <p>[医学科]</p> <p>●求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療への理解と共感を有し、将来の医師としての強い倫理観を持ち、住民の健康・福祉に寄与できる人 2. 基礎および臨床医学や社会医学の研究に深い関心を持ち、国際性を備えた研究者としての資質を有する人 3. 大学入学後の学業に支障ないだけの隔たりのない基礎学力を持ち、生命科学に対する関心を持つ将来性豊かな人 <p>[保健学科]</p> <p>《看護学専攻》</p> <p>●求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学に関する高い関心と看護職として人々の健康や生活を支えたいという意欲を持つ人 2. 豊かな人間性と協調性を備え、高い倫理性を育ていける人 3. 十分な基礎学力を持ち、探究心を持って主体的に学習できる人 <p>《理学療法学専攻》</p> <p>●求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法学に対する強い関心や学習意欲を持つ人 2. 地域住民の健康増進や福祉に寄与したいとする意志と豊かな人間性を持つ人 3. グローバルな視野を持ち、科学的探究心の強い人 <p>《作業療法学専攻》</p> <p>●求める人物像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法学に興味・関心があり、学習意欲と論理的思考能力を持つ人 2. 国際的な視野を持ち、科学的探究心の強い人 3. 地域の抱える諸問題に関心があり、他者をよく理解し、細やかな配慮や行動・発言ができる人

学部等名 理工学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、世界的ニーズが明確で発展の著しい、理学と工学が融合した理工学を教育研究分野の中心に据え、更に理学・数学から工学に至る幅広い教育学問分野を包括する地域の教育拠点を構築します。学部教育において、理系基礎科目の理解増進による論理的に考える力に加えて、英語と実践教育科目の強化により、グローバル社会で即戦力として活躍する人材を育成することが本学部の理念です。これにより理学・数学から理工学、工学の多面的な学問分野で、身につけた深い基礎学力と新しい発想によって新時代の諸課題にたくましく取り組む人材を育成することを目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html)</p>

(概要)

理工学部では、次のような知識、技能、態度等を身につけた学生に、「学士（理工学）」「学士（理学）」または「学士（工学）」の学位を授与します。

(知識)

1. 理工学の各分野の基礎知識・技術
2. 各コースの分野における専門知識・技術
3. 専門分野に関連する職業・キャリアパスの知識
4. 地域の自然、社会、産業、文化等に関する知識

(技能)

5. 種々の科学・技術および情報を利用して社会の要求に応えるためのデザイン能力とプロポーザル能力
6. 周りの人々と協働して課題を解決する統率力
7. 与えられた制約の下で課題解決に向けて計画的に取り組む実行力
8. 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力
9. 英語の活用能力
10. 情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集・分析し効果的に応用する情報活用能力

(態度)

11. 主体的かつ継続的に学習する態度
12. 地域の諸課題を自ら発見し、柔軟で総合的な視点で課題に取り組む態度
13. 科学技術が自然と社会に及ぼす影響と効果を理解し、強い責任感と高い倫理観を持って行動する態度

以降は、学位毎に求められる素養です。

学士（理工学）：理学と工学が融合した理工学の幅広い知識と論理的な思考力、およびグローバル社会や地域の諸課題に挑戦する科学技術者・研究者としての能力

学士（理学）：理学系と数学に関する幅広い基礎知識、問題解決能力と創造性、および科学者・研究者としての社会的義務と責任を認識する能力

学士（工学）：工学系の先端分野・学際分野に関する知識・技術、高齢化問題への対応や防災力の向上など持続可能な地域社会の実現に向けた諸課題および新たな産業に挑戦する科学技術者・研究者としての能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)

理工学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を編成します。

(教育課程編成方針)

1. 数学や理科などの理工学基礎を確実に理解させる教育を行います。
2. 応用力や創造性を重視した専門教育を行います。
3. 社会における科学技術の役割、技術者の責任と倫理を理解させる教育を行います。
4. 国際性を培う専門教育を行います。
5. 地域の自然、社会、産業、文化に関する知識の理解を深める教育を行います。
6. デザイン能力とプロポーザル能力を養成するカリキュラムを構成します。
7. アクティブラーニングやグループワークを通じて、周りの人々と協働して学生が主体的に課題を解決することができる機会を提供します。
8. 情報通信技術（ICT）を用いた情報活用能力を養成するカリキュラムを構成します。
9. 職業意識を高める実践的なキャリア教育を行います。
10. 教育に関する情報の恒常的な把握に努め、カリキュラムを定期的に点検・評価・改善することで、自律的に教育の質を保証します。

理工学部では、大学院博士前期課程の2年間を含めた6年一貫教育を意識した学修課程の実現を目指します。

(学修方法・学修過程)

1 年次では、大学での学びに必要なスタディスキル等を習得し、主体的に学修する態度および他者と協働して課題に取り組む姿勢を涵養するために、「初年次ゼミ」を履修します。1～2 年次では、有意義な生涯を送るための教養知識や伝統文化を学ぶ「主題別科目」、専門分野で必要とされる外国語運用能力を養うために「国際言語科目」を履修します。また、数学、物理、化学、生物の基礎教育科目を特定の専門分野に限らず広く学び、それぞれの専門で必要となる基礎学力を養います。併せて情報処理の技法、基礎情報学、基礎 AI 学を学び、現代社会の基本スキルである情報活用能力を養成します。さらに、地域志向科目を通して地域の自然、社会、産業、文化に対する理解を深め、地域産業に貢献できるオーラウンダーとしての能力を修得します。

2～4 年次では、コースの専門分野を深く学ぶ「コース専門科目」を履修し、各分野のエキスパートとなるための専門知識を修得するとともに、実験、実習および学生参加型授業等を通じて応用力と創造性を養成します。さらに、多様性のあるチームの一員またはリーダーとして活躍できる理工学全般の専門知識を身につけるために、「学科共通科目」、「学部共通科目」を系統的に履修します。また、科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、これに配慮して行動することができる高い倫理観を養うほか、専門分野と社会・産業との関連性について理解し、就業意識を醸成します。さらに、外国人教員による英語科目等を通じて英語コミュニケーション基礎能力を身につけます。

4 年次では、コース専門分野の発展科目を履修するとともに、「研究プロポーザル」、「卒業課題研究」を通じて、多様な人々に説明する表現力、他者と相互理解を深めるためのコミュニケーション能力、論理的な文章作成能力、自ら課題を設定しその解決策を導き出すデザイン能力とプロポーザル能力を磨き、競争社会をたくましく乗り切る力を養成します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.akita-u.ac.jp/kcenter/policy.html>)

(概要)

◆育てる人間像

理工学の分野においては、人材育成と研究開発の「リージョナルセンター」として、創造力と技術力を兼ね備えた人材を供給するとともに、イノベーション創出により地域産業に更なる発展をもたらすことが期待されています。理工学部では、自ら課題を発見でき、未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟で総合的な判断で課題を解決していきける人材を育成します。

●求める人物像

1. 理工学を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人
2. エネルギー・環境問題、新しいものづくりと物質・デバイス創成、また少子高齢化や自然災害対策などの大きな社会的課題に関心を持ち、積極的に自己学習できる人
3. 研究者や科学技術者として世界や地域の発展に貢献する意欲を持つ人

[生命科学科]

《生命科学コース》

●求める人物像

1. 科学全般、特に生命科学に興味を持つ人
2. 生命科学を学ぶ上で必要な基礎学力を持ち、特に化学と生物の学力と国語や英語などの語学能力を高いレベルで持つ人
3. 勉学と研究に高い目標を持ち、それを達成しようとする強い意志を持つ人

[物質科学科]

《応用化学コース》

●求める人物像

1. 化学が好きで、探究心が旺盛な人
2. 化学的現象の解明や自然と調和した未来物質の開発に興味のある人
3. 国際的に活躍する化学技術者・研究者を目指す強い意欲のある人

《材料理工学コース》

●求める人物像

1. 物理や化学が好きで、探求心が旺盛な人

2. 金属, 半導体, セラミックスを利用した, 機械・構造材料, 磁性材料, 電子・光学材料, センサー材料, 環境・新エネルギー材料に興味がある人
3. 発展する科学技術の基礎となる様々な材料の研究と開発を行う技術者や研究者を目指す人

[数理・電気電子情報学科]

《数理科学コース》

●求める人物像

1. 数学, 物理学, 計算機科学に興味を持ち深く学んでみたい人
2. 論理的かつ客観的な視点で粘り強く考えることが好きな人
3. 自然の原理や仕組みについて考えたり話したりすることを楽しく感じる人

《電気電子工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理が好きで, ものやシステムの原理や仕組みを論理的に思考・理解しようとする人
2. 環境に調和した電気エネルギー, 創意や工夫にあふれる光・電子デバイス, 人にやさしく知的な情報通信や医療機器, 社会の基盤を支えるコンピュータや制御システムなどに興味のある人
3. 創造性を発揮して国際的に活躍する最先端のエレクトロニクス技術者や研究者を目指す意欲のある人

《人間情報工学コース》

●求める人物像

1. 感性が豊かで, 論理的思考に習熟し, 対象を広く, また深く理解しようとする人
2. ヒトとコンピュータとの調和に配慮した高度な情報通信技術 (ICT) に興味がある人
3. 日進月歩の高度情報化社会に貢献する技術者や研究者を目指す, 意欲のある人

[システムデザイン工学科]

《機械工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理が好きで学習意欲があり, 工学の基礎学力を高めたい人
2. 設計, 力学, 制御を学び, ものづくりによりエンジニアの素養を得たい人
3. 持続的社會形成の必要性を理解し, 創造的な機械開発にチャレンジしたい人

《創造生産工学コース》

●求める人物像

1. 数学や理科系科目が好きで学習意欲があり, 基礎学力をさらに身につけたい人
2. 機械工学や宇宙工学を学び, 「ものづくり」のための工学基礎力を身につけたい人
3. プロジェクト遂行体験を通して実践力と創造性を高め, 新しい分野に挑戦したい人

《土木環境工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理などの自然科学の知識を社会基盤の整備と発展に活かしたい人
2. すべての人が安心して生活できる社会基盤をつくるには, どうすればよいのかに興味がある人
3. 自然環境と人間環境が調和した社会基盤の整備と発展に役立ちたい人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法: 大学ホームページへの掲載

(<https://www.akita-u.ac.jp/honbu/faculties/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
国際資源学研究科	—	16人	9人	3人	13人	0人	41人
教育文化学部	—	37人	39人	18人	2人	0人	96人
医学系研究科	—	49人	34人	14人	74人	0人	171人
理工学研究科	—	33人	40人	17人	24人	0人	114人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		249人					249人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページへの掲載 (https://akitainfo.akita-u.ac.jp/search?m=home&l=ja)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際資源学部	120人	121人	100.9%	480人	519人	108.1%	—人	0人
教育文化学部	210人	220人	104.8%	840人	891人	106.1%	—人	1人
医学部	201人	233人	115.9%	1,192人	1,211人	101.6%	19人	0人
理工学部	395人	408人	103.3%	1,604人	1,710人	106.6%	12人	121人
合計	926人	982人	106.0%	4,116人	4,331人	105.2%	31人	22人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際資源学部	119人 (100%)	48人 (40.3%)	66人 (55.5%)	5人 (4.2%)
教育文化学部	213人 (100%)	11人 (5.2%)	185人 (86.9%)	17人 (8.0%)
医学部	227人 (100%)	3人 (1.4%)	102人 (44.9%)	122人 (53.7%)
理工学部	457人 (100%)	222人 (48.6%)	209人 (45.7%)	26人 (5.7%)

合計	1016人 (100%)	284人 (27.9%)	562人 (55.3%)	170人 (16.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 毎年年度当初に学生全員へ配付する冊子に「学年暦」及び「授業予定表」を掲載し、1年間の授業を行う期間を掲載している。また、当該年度に開講する授業科目についてシラバスを作成し、授業開講年度の4月(授業開始前)にインターネット上(学外からも閲覧可能)で公表している。
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各学部における「学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)」に基づき、適正に単位授与及び履修認定を実施している。卒業の要件は、4年以上(医学部医学科は6年以上)在学し、学部が定める所定の単位を修得するものとする。卒業の要件を満たした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際資源学部	国際資源学科資源政策コース	127 単位	有・無	単位
	国際資源学科資源地球科学コース	124 単位	有・無	単位
	国際資源学科資源開発環境コース	124 単位	有・無	単位
教育文化学部	学校教育課程	135 単位	有・無	単位
	地域文化学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	206.5 単位	有・無	単位
	保健学科看護学専攻	133 単位	有・無	単位
	保健学科理学療法学専攻	132 単位	有・無	単位
	保健学科作業療法学専攻	131 単位	有・無	単位

理工学部	生命科学科	124 単位	有・無	単位
	物質科学科	124 単位	有・無	単位
	数理・電気電子情報学科	124 単位	有・無	単位
	システムデザイン工学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページへの掲載

(https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際資源学部	国際資源学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
教育文化学部	学校教育課程	535,800 円	282,000 円	0 円	
	地域文化学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
医学部	医学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	保健学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
理工学部	生命科学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	物質科学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	数理・電気電子情報学科	535,800 円	282,000 円	0 円	
	システムデザイン工学科	535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

【全学における支援】

学習支援のひとつとして「質問教室」（物理、化学、数学、英語）を開設しています。この質問教室は授業時間とは別に時間と場所を設定しており、教員や先輩学生が大学の授業内容や高校までの学習で不十分な箇所への質問を受け付けているほか、対面時は自学自習のスペースとしても活用されています。

その他に大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として先輩学生が1年生の学習のサポートをする「学習ピアサポート・システム」を設け、新入生向けに開講している教養教育科目「初年次ゼミ」でのサポートや学習相談の受付をおこなっています。

平成27年度からはe-learningシステム「Web Class」を導入し、教員からの自習課題の提供や自学自習のための教材として、高校までの学習内容を復習することを目的としたリメディカル教材（入門物理、入門化学、入門物理）の提供に活用する等、学習環境の整備を進めています。

また、全学の学生を対象として“学生による学生のための自律学習”をテーマに、英語に関わる様々な活動を支援する空間として「ALL Rooms」を設けています。

附属図書館においても「学習サポートデスク（としょサポ）」を配置し、学習相談や資料の探し方などの相談を受け付けています。

なお、各学部独自の支援は以下のとおりです。

<p>【国際資源学部】 修学状況に応じて、各コースの担当教員が面談を行っています。</p> <p>【教育文化学部】 学生に担任教員を配置して定期的に面談を実施し、学生の修学を支援しています。 また、学生が積極的に学業に取り組むことのできる環境を整備することを目的として、「学生支援基金」にて、経済的理由により学業の継続が困難な状況に置かれた教育文化学部及び大学院教育学研究科の学生に対して、経済的支援を行っています。 (https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/edu_life/li_tuition.html)</p> <p>【医学部医学科】 学業・生活支援 WG にて、学生の学業や心身についてのフォローを検討・実施しています。 また、学生の自習室として講義室や PC 実習室を開放。医学図書館での自習も可能で、5・6年次の学生限定ではありますが時間外特別入館カードを配布しており、閉館時間以降も図書館の利用を可能としています。</p> <p>【医学部保健学科】 クラス担任制（看護学専攻 4 年次はチューター制度）を採用し、学生の修学をサポートしています。 また、学生の自習室として講義室を夜間まで開放。授業では WebClass を利用したり、e-Learning 教材の提供や学習したデータを「e ポートフォリオ」として学習の振り返りや評価に利用したりしています。</p> <p>【理工学部】 学部生については、各コース・学年に担任を置き、学生の修学を支援しています。 また、全学生に対して年 2 回の面談を実施し、個別に指導を行っています。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【全学共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職ガイダンス：主に 3 年生を対象に、就職活動スケジュールに合わせ、自己分析や企業研究の取り組み方・インターンシップ、エントリーシート・面接・筆記試験対策等のガイダンスを実施しています。 ○企業合同説明会（ジョブ・フェア）：3 年生を対象に毎年 3 月に企業合同説明会を開催しています。 ○業界研究セミナー：3 年生を対象に、11 月～2 月ころに業界研究セミナーを開催しています。 ○学内個別説明会：3～4 年生を対象に企業による個別説明会を開催しています。 ○初年次ゼミ：初年次ゼミの中で、職業観育成に関する講演を実施しています。 ○インターンシップ参加促進：県内企業・官公庁等のインターンシップ受入先の開拓、学生の参加促進のための情報提供及び申請手続を実施しています。 ○個別支援：各学生の状況にあわせたエントリーシート添削・面接対策等の個別支援を実施しています。 ○就活支援情報配信：a・net（総合学務支援システム）や掲示板を利用し、学生に随時発信しています。 ○交通費助成事業：就活で利用する高速バスの運賃助成を実施しています。 <p>また、各学部ではそれぞれ就職担当教員を配置し、以下のように独自の取り組みも実施しています。</p> <p>【国際資源学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学部の強みである実業界との太いパイプを活かして、企業からの求人情報の提供、OB 等による会社説明会の開催、エントリーシート添削、面接指導など、就職に関する全般にわたって支援しています。 <p>【教育文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職、公務員、企業担当の就職担当教員を配置しています。 ○教員による面接指導、エントリーシート添削を実施しています。 ○就職ガイダンス、セミナー等を開催しています。

- 就職情報室：就職担当職員が相談に応じるほか、就職に関する様々な資料を閲覧できます。
- 希望者へ就職情報をメール配信しています。
- 教員採用支援講座：教員志望学生のための教員採用試験対策講座を実施しています。
- 教員採用試験対策合宿の実施：教員志望学生のための合宿・各種セミナーを実施しています。
- 【医学部医学科】
- 研修に関する説明会も年数回行っており、卒業生や各科専門医からのアドバイスを受け取る機会を提供しています。
- 【医学部保健学科】
- 就職・進学支援担当教員を配置し、学生の就職・進学をサポートしています。
- 各専攻別に、医療施設等の合同説明会を実施しています。
- 【理工学部】
- 各コースに進路指導担当教員において、学生の就職指導に当たっています。
- 各コース就職ガイダンスの開催、企業からの求人情報の提供、OB等による会社説明会の開催、面接指導等、就職に関する全般にわたる支援を行っています。
- 各コースに就職資料室を設置し、求人情報、会社案内、会社説明会の案内等、各種情報の提供をしています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【全学における支援】

- 学生相談所の設置（保健管理センター内）
保健管理センターに設置されており、心の相談・健康相談に応じています。プライバシー保護のため個室の相談室があり、学生生活全般にわたる悩み事について、専門相談員が親身になり相談を受けています。本人だけでなく、家族からの相談にも応じており、電話・FAX・メールでの相談も受け付けています。
- よろず相談室「おざってたんせ」（学生支援・就職課内）
学生支援・就職課の事務職員が学生支援総合センターの窓口及び個別相談室において、学生生活で起こる様々な問題・悩み・トラブルを抱えた学生の相談に乗っています。相談の中で、学生がメンタル面に問題を抱えていて専門の知識が必要であると判断した場合には、保健管理センターまたは学生サポートルームを紹介します。
- 学生特別支援室「通称：学生サポートルーム」（学生支援総合センター内）
障害のある学生や学生生活に困難を感じる学生の修学上の支援や進路・学業問題等に関して相談に乗り、必要に応じて適切な支援・配慮を受けられるよう、学内の関係部局等とも連携・協力を図っています。
常勤のスタッフが専用の相談室で相談対応しており、学生だけでなく保護者・教職員も相談可能です。
- 学生相談ダイヤル（24時間対応）の設置
学生からの相談に24時間対応するフリーダイヤルを開設しており、学生生活で起こる様々な問題・悩み・トラブルについて相談に乗っています。その中でメンタル面での相談があった場合は、保健管理センターを紹介するなどしています。
なお、各学部独自の支援は以下のとおりです。

【医学部】

- 医学科：学業・生活支援WGにて、学生の学業や心身についてのフォローを検討・実施しています。また、必要に応じて、学生特別支援室（学生サポートルーム）や保健管理センターと連携・協力しています。
- 保健学科：学生からの相談等に対応できるよう、教員2名が学生相談員として配置されています。また、必要に応じて、担任の教員や学生特別支援室（学生サポートルーム）、保健管理センターと連携・協力しています。

【理工学部】

修学上の問題や対人関係、健康や将来に対する不安などの悩みを抱える学生の窓口として「なんでも相談室」を週1回開設しており、主にメンタル面に関するカウンセリングを行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページへの掲載

(https://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_education.html)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F105110101051
学校名	秋田大学
設置者名	国立大学法人秋田大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		485人	480人	517人
内 訳	第Ⅰ区分	242人	251人	
	第Ⅱ区分	140人	148人	
	第Ⅲ区分	103人	81人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				517人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	13人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	20人		
計	33人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	33人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	33人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。